1/100H.M.S.ビクトリー組み立て説明書

今井科学株式会社
〒420 静岡市音羽6-18-10 TEL.(054)261-4546代

H.M.S. VICTORY

Nelson's Flagship at the Battle of Trafalgar in 1805

1/100SCALE

1765 イギリス海軍所属 3檣フルリグドシップ

H.M.S. ビクトリー《帆付き》

LENGTH…1000㎜ WIDTH…320㎜ HEIGHT…698㎜

誇り高き英国海軍魂の象徴ビクトリー

ビクトリーという名前の帆船は、少なくても5隻あったといわれている。

記録に残る最初のビクトリーは、1560年に作られた商船。二代目ビクトリーは1620年で最終期のガレオンであった。

三代目は1715年建造のもとロイヤル・ジョージが改名し、続く四代目ビクトリーは1737年に進水した110門搭載一級艦が名乗った。五代目ビクトリーがネルソン提督と共にトラファルガー海戦を闘いぬいた、あの戦列艦であり、いまでは、ビクトリーと言えば、五代目を指すまで有名になってしまった。

ビクトリー（五代目・以下同じ）の最初のキールがチャタムの王立造船所に据えられたのは1759年のことだった。

ビクトリーの船用材は、カシやニレ、プナで、その数およそ2,000本といわれ、なんと、1744年、つまり15年も前から伐採が始められたといわれている。

このクラスの戦列艦になると、キールは21インチ角のカシ材が使用され、船尾竜骨材には長さ30フィートもある頑丈な木材を採用していた。

外板は5インチ厚のバルト海産カシ材を三重張りした。

ビクトリーの進水は、着工後6年たった1765年のことで、その日、ビクトリーは、少し右舷側に傾きながら船尾から無事に進水したという。

海上でマストとヤードが頂付けられ、500トンの鉄バラストと、643トンの石バラストを積んで正常になった。

ビクトリーの要目をあらためて紹介すると、全長228フィート、全巾52フィート排水量3,225トン、武装・第一砲甲板に32ポンド砲32門、第二砲甲板に24ポンド砲28門、第三砲甲板に12ポンド砲30門、主甲板上に12ポンド砲2門の合計、102門搭載の第一級三層砲列艦で850名の定員が乗り込んでいた。

当時の英国海軍は300隻もの艦艇を保有していたが、ビクトリーと同級の戦列艦は、わずか5隻を数えるのみで、そこに参入したビクトリーは、制海権の上からみれば、まさに今世紀初頭における新戦艦の登場あるいは、その次に出現した航空母艦に匹敵する強力な戦力であった。

1762年、英国とフランスの間で和平が唱えられて、ビクトリーは他の100隻の軍艦と一緒に予備役に編入され、チャタム軍港で係船されることになった。

この係船は、13年間の長期に及びます。

1778年、対仏関係の悪化にともない、ビクトリーはふたたび現役に復帰して、海峡艦隊に配属、ケッペル提督の旗艦になり、同年フランスとの対戦で、船腹と索具にかなりの被害を受け、死傷者35名をだしたと記録される。

1780年、ビクトリーのマストには、ハドレー、ゲラリィ、ドレーク、パーカー、エリオット等各提督が旗を掲げ、1781年には北海作戦に従事、その後、ケンプヘルト提督に率いられてフランスと闘い勝利をおさめている。

1783年、ジブラルタルへ応援に派遣。

1793年、地中海艦隊に配属。フッド卿の旗艦をつとめ、ツーロン占領作戦やコルシカ攻略戦に従事する。

1795年、対仏戦闘でマストと索具に被害を受け、21名の戦死者も発生。

1797年、有名なセント・ビンセント岬沖海戦に、ジョン・ジャービス提督（のちのセント・ビンセント卿）の旗艦として参戦、スペインの112門艦サルバドーレ・デル・ムンドを撃破、ビクトリー側の死傷者わずか9名という大勝利であった。この時のビクトリーは建造開始後40年近くも経った老朽艦であった。

セント・ビンセント岬沖海戦後、ビクトリーは、またチャタムに回航されて病院船となり、18世紀末まで保留された。

したがって、1798年にネルソンがその勇名を高めたナイル沖海戦や、1801年のコペンハーゲン作戦には、ビクトリーは残念ながら参戦していない。

英国における船用材（主としてカシ材）の供給が豊富であったなら、ビクトリーは多分、病院船か囚人船として、このままその一生を終っていたことだろう。

しかし、ナポレオンの侵略の恐怖が高まるにつれて、船用材の不足は激しくなり、戦列艦どころかフリゲートやスループでさえも思うように建造できなくなってきた。

ここここに至ってビクトリーも、またまた現役復起が決定して、1800年と1803年に大改装が施された。それまでミズンマストにあったラティーン（三角帆）が、現在のスパンカーに改められたのも、このときの改装でした。

1803年、対仏戦争が再開されるやいなや、ビクトリーは地中海艦隊に配属され、ネルソン提督とハドレー艦長の指揮のもとに、フランスとスペイン艦隊の封鎖作戦に従事します。

封鎖網を破って、なんとか合流しようとするフランスのビルヌーヴ提督の艦隊。それを追うネルソン艦隊。しかし、これという会戦もなく、2年余の歳月が過ぎ、1805年8月、ビクトリーはスピットヘッド泊地へ帰還した。

それは、ホレーショ・ネルソン提督が生きて大地を踏んだ最後の機会だった。

1805年[illegible]リーに戻[illegible]カディス港封鎖[illegible]

10月19日朝6時、カディス港に最も近く接近して監視中の英フリゲート、シリウスから、「敵艦隊はトップスルを展帆した」の信号が、続いて1時間後、「敵艦隊は出港しつつあり。」の　号が送られた。信号は次々と中継されて、9時半には50マイル離れていたビクトリーに届いた。

11時半ビクトリーのマストに、司令長官ネルソンの有名な信号旗がひるがえった。いわく――祖国イギリスは、各員がその義務を尽すことを期待する。

続く信号旗は――接近戦を実施せよ。

こうして、ビクトリー以下27隻の英国戦列艦は2本の槍のようになって、半月形にのびた33隻の連合艦隊戦列艦に突入して行った。トラファルガー海戦の開幕である。

英国側の2本の槍の先頭は、コリングウッド提督の100門艦ロイヤル・ソブレンと、ネルソン提督のビクトリーであった。戦闘は正午から夕刻まで続いた。

史上名高いこの海戦の結果、ビクトリーは重大な被害を受けて、ネルソン以下150名の死傷者を出した。しかし、勝利は英国のものとなり、連合艦隊は17隻の戦列艦が拿捕され、1隻が轟沈4,500名の戦死者と2,400名の負傷者、7,000名が虜囚になり、事実上全滅したのである。

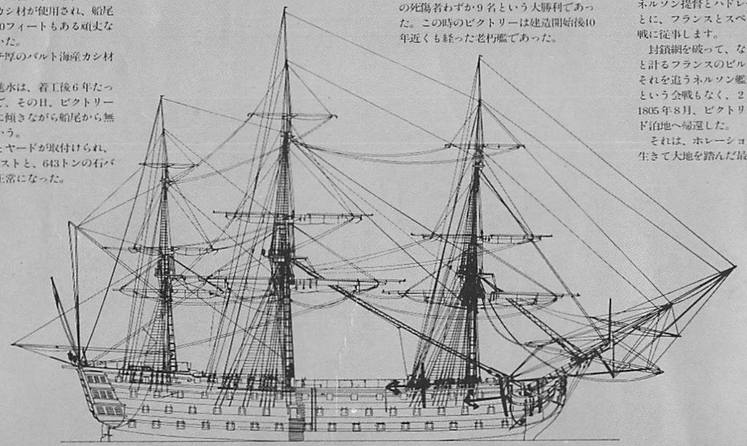
トラファルガー海戦の損傷を、ジブラルタルで仮修理を施したビクトリーは、本国チャタムへ送られ、本格的な修理をうけた。

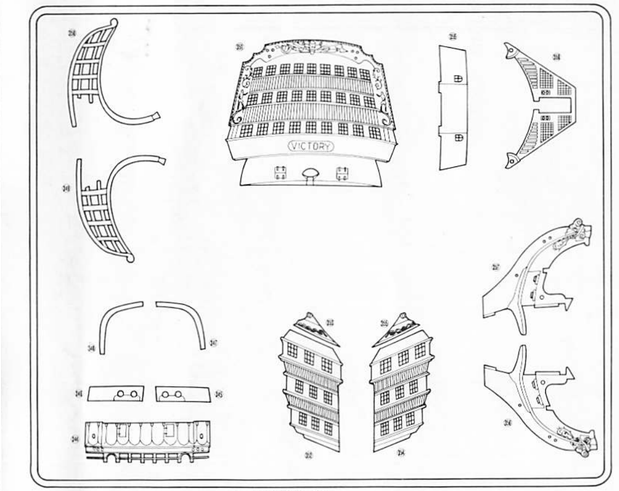
1808～1812年、ビクトリーはウエリントン将軍のイベリア半島作戦の支援に従事の後、本国へ戻って待機。

1824年、ポーツマス軍港の司令長官旗艦になり係留。1903年、曳航中の廃船が衝突して船腹に穴が開くが、応急処置で、辛くも沈没を防ぐ。1914年、第2次大戦中、ドイツ空軍機の爆撃で右舷船首と舷側に尽大な損傷を受ける。そのときの損傷は戦後になってようやく修復された。

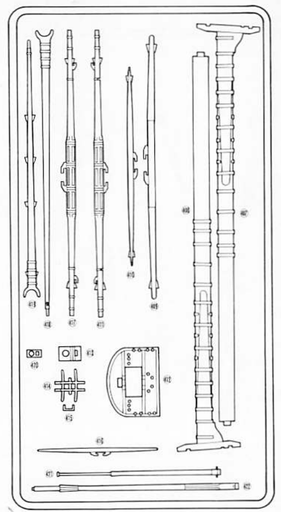
1945年10月、トラファルガー海戦140年を記念して一般公開が始められ、いまでは年間50万人の見学者が訪れている。

現在も、艦長が在任するレッキとした現役待遇で、例年10月21日には、ネルソン提督をしのび、マストに高々と信号旗がかかげられる――祖国イギリスは各員が義務を尽すことを期待する、と。

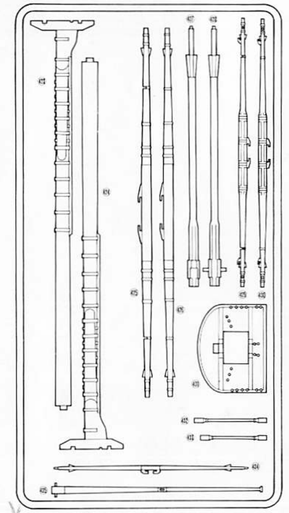




▲No.16(34～38)

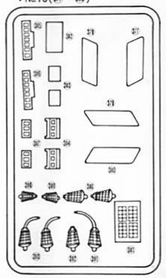


▲No.20(62～65)

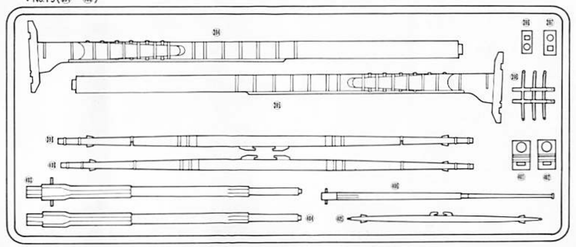
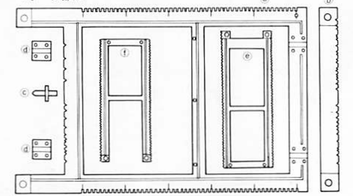


▲No.21(66～69)

▼No.18(57～61)



▼No.19(58～61)



▼ゲージ部品